編集後記　「泣いた赤鬼―」

アヴニール労務事務所　所長 柿野元博
http://www.avenir-sr.jp
E-Mail　avenir4you@gmail.com

２月といえば節分。
鬼はそとー。福はうちー。乱暴者とされる鬼は嫌われ者です。
でも「泣いた赤鬼」という、浜田廣介さんの児童文学を
ご存じでしょうか？　そこには、優しい鬼が描かれています。

ずっと村人と友達となりたいと思っていた赤鬼がいました。そんな赤鬼の話を聞いた青鬼はなんとかしてあげたいと思いました。そして人間の村へ出かけて大暴れをするから赤鬼に懲らしめてほしいと策を立てて実行に移します。
かくして計画は成功し、赤鬼は村人と仲良くなることができました。
しかし、それ以来赤鬼の家に遊びに来ることがなくなったことを不思議に思って青鬼の家を訪ねると置き手紙を見つけます。

あかおにくん、にんげんたちとどこまでもなかよく　まじめにつきあって、たのしくくらしてください。
ぼくは、しばらく　きみには　お目にかかりません。このまま　きみと　つきあいをつづけていけば、
にんげんは　きみを　うたがうことになるかもしれません。
そうかんがえて　ぼくはこれからたびにでることにしました。ながい　ながい　たびになるかもしれません。けれども、ぼくは　いつでもきみをわすれまい。さようなら、きみ　からだをだいじにしてください。
どこまでも　きみのともだち　　あおおに

赤鬼は、だまって、それを読みました。二度も三度も読みました。
そして、なみだを流して泣きました。

ないた　あかおに
（出版社：偕成社）
作：浜田 廣介
絵：池田 龍雄

自分自身の損得だけではなく、大切な人のために自分ができることをする。
青鬼の愛しい程の優しさは言うまでもありませんが、加えて赤鬼には
好かれる人（鬼？）徳もあったのでしょう。
なかなかそんなことはできません。あくまでこれは童話の中の話ですから。

昨年の年の瀬のことでした。**(@_@)**
「育ててもらったカープに恩返ししたい」
ネットニュースの黒田投手の復帰のタイトルを見たとき、まさかという思いで、タイトルを３度見しました。
それは、ニューヨークヤンキースでＦＡを取得した黒田博樹投手が、ヤンキースや他のメジャーからの
オファーを蹴って、広島カープに戻ることを決めたというニュースでした。
数多くのオファーを受けながら、自らメジャーを去る選択をした日本人選手は前代未聞です。

広島カープは、アマチュア時代たいした成績もあげなかった黒田投手に早くから目をつけ、厳しくそして
辛抱強く育てました。打てない、守れない。貧乏球団で補強もできない。そんな万年Ｂクラスのチームの中
で、黒田投手は鬼神のような獅子奮迅のピッチング。いつかエースとなっていきました。
そしてアスリートとして、上にいけばさらに上を目指したいのは当然のこと。
「広島東洋カープから来た黒田です」という、ロサンゼルスドジャースの入団会見の挨拶を聞いた時は、
嬉しかったものです。
その後ドジャースから名門ヤンキースに移り、安定した活躍を続けていました。
そんな黒田投手の復帰は、若い選手にきっといい影響を与えてくれるに違いありません。

多くの企業や管理職の皆さんは、人材育成に苦労をされていることと思います。
「ちゃんと愛があるなら、ちゃんと叱ってやればいい。」あるビールＣＭのセリフです。
若い社員は、上司や先輩を、その会社における自分の将来に重ねるもの。
いつか「育ててもらった恩返しをしたい」と言ってもらえるような職場を作りたいですね。
黒田投手の記事を何度も読んだ僕は、赤鬼みたいに泣いてしまいました。**(T_T)**